

下諏訪町観光振興計画【改訂版】(案)における
パブリックコメント結果概要について

1. 実施期間 平成31年2月22日(金)～平成31年3月25日(月)
2. 実施方法 ①住民周知 下諏訪町ホームページに掲載
報道 市民新聞社
②資料の提供 下諏訪町ホームページに掲載、産業振興課窓口で提供
③募集方法 産業振興課観光係窓口へ持参、郵送、電子メール、FAX
3. 募集結果 意見、要望提出者2名、4件

いただいたご意見、要望	町の考え方
<p>P6 1-①「観光素材の掘り起こしと個性あるまちめぐりルートの開発」について</p> <p>近年、SNS等で話題となるとそこへ観光客が一極集中し、オーバーツーリズムとなるケースが国内外によくみられる。</p> <p>駐車場や公衆トイレの管理、ゴミの始末、自然環境への過負荷、混雑による地域住民への悪影響や生活環境の悪化が問題となり、せっかくの地域の宝が失われるばかりではなく、当該自治体や住民で負担を負うのみとなり、管理にかかる経費も賄えない事態になるケースが各地で散見されている。こうした事態を回避するために、観光素材を発見し観光資源として開発・発信・利用する前に、文化的価値をきっちりと査定し、保全保護の手立てをたて、観光資源として供する準備を行うべきである。</p> <p>また、観光資源として利活用するにあたり、先人が時間をかけて築きあげた下諏訪町の人の生活習慣、信仰の形、自然環境を一時の利益に供したがために失われることのないように、慎重に行われることが望ましい。</p> <p>例えば、「万治の石仏」の付近に掲示されている一部団体が“推奨する”とした参拝方法は、講の人たちが長年石仏をお守りしてきた経緯もあるにもかかわらず、事情を知らない観光客がSNS上で広めてしまう事態になっており、非常</p>	<p>本町の観光情勢は、旅館数の減少傾向に伴い、観光客数、観光宿泊者数の減により観光消費額は減少しており、人口減少と少子高齢化の進展により地域経済の縮小化が予想されます。</p> <p>この様な状況の中、本計画では、行政や観光事業者だけでなく、他産業や住民も一体となって観光地域づくりに取り組み、滞在時間の拡大を図ることによる観光消費額の増額を目標に観光振興を推進していくとしています。</p> <p>ご指摘のとおり、観光客が大幅に増加することにより、居住する地域住民に負担と悪影響を与え、生活や地域環境を破壊する可能性があるため、オーバーツーリズムの対策を考慮しておくことは必要であります。</p> <p>混雑の対応としては、P6 1-②「体験・体感を加えた周遊プランの開発」により、時間、季節、場所において、観光客の分散化を進め、P6 2「観光環境や観光施設の整備」により、来訪者に満足いただけるような環境整備を進めながら、観光公害に対する予防的措置を検討し、持続可能な地域観光地を目指してまいります。</p> <p>また、本計画を着実に推進するには、町民や観光関係以外の事業者も巻き込み地域が一丸となって「観光地域づくり」を進めていくこと</p>

<p>に悪質な文化破壊を助長している。</p> <p>先人の築き上げた文化が消され、誤ったことが流布される事態になるような文化財の活用方法は厳に慎むべきである。</p> <p>なお、観光施設の案内板にガムテープや養生テープでまちあるき企画のキーワードを観光関係者の手で貼るような無神経な行いは、デザインを損ない見苦しい。来訪者が受ける町全体の印象を落とし景観上も好ましくないうえに地域住民の努力を損なうものである。</p> <p>観光振興計画には町と観光協会が観光地に望ましい景観のありかたに対する共通の認識を持ち、「おもてなし」のこころがすみずみまでいきわたるように配慮することを明確に盛り込むようお願いしたい。</p>	<p>が必要であり、町民一人ひとりが地元の自然、歴史文化などに愛着と誇りを持ち、ホスピタリティと観光に対する意識の向上が魅力ある観光地域づくりに繋がるとしています。</p> <p>歴史的資源の価値を地域住民が理解していくことは重要であることから、P6 2-③に以下の文章を追記します。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>追記：「歴史的資源の価値を地域住民が共有し、文化財等の保全及び有効活用を図る」</p>
<p>P6 2-②「山岳観光地の受入れ環境の整備」について</p> <p>平成30年度にクラウドファンディングの実施をした八島ヶ原湿原の木道整備事業が行われていたが、これは町による計画的な修繕や部材の交換が行われていなかったことと推測する。</p> <p>来訪者の安全確保、もとより国民全体の宝である八島ヶ原湿原（国指定天然記念物）の保全のためにも、木道の整備には毎年計画的に予算を確保し、教育委員会や文化財担当者と連携の上、永続的に実施されることを観光振興計画にも明記するべきである。</p>	<p>八島湿原の木道は広範囲に設置されていることから、計画性を持った改修は必要であるため、P6 2-②の文章中に「計画的」を追記します。</p> <p>修正前：「八島湿原遊歩道の継続的な整備を実施する」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>修正後：「八島湿原遊歩道の計画的かつ継続的な整備を実施する」</p>
<p>P10「主要目標」「個別目標」</p> <p>観光消費額について現状の1900円程度から3000円を目標としているが、その内訳と何人分を見込むのか、その合計消費額を目標として明記し、実現に向けて具体性を高めるべきである。</p> <p>また、個別目標は人数で計画されているが、単に客数が増えても町の負担ばかりが増えるだけである。こちらは目標とするトータル金額を併記するべきである。</p>	<p>主要目標については、魅力的な観光商品の造成により、少しでも長く滞在していただき、食事までとっていただくことを想定して3,000円に設定し、単価の拡大を目標としていることから、今回の計画では観光客一人あたりの消費単価を目標値として掲載いたしました。</p> <p>個別目標は、長野県観光地利用者統計の数値を使用しておりますが、今後は、P12の観光振興局、行政の役割に記載してあります、「観光動向、各種データの集約」「観光振興の展開に</p>

観光地に人数だけが来ても受け入れる地元にとっては、ゴミの始末、トイレの維持管理、駐車場の整備、イベントがあれば警備員の確保や職員の動員等、負担が大きいだけでメリットに乏しい。消費意欲の高い客層が気持ちよく高額消費できる環境は、人間でゴった返す空間ではない。

特にこの項で「体験施設」と挙げられている3館については、入館者数の落ち込みや赤字が続いていることは過去の町の決算や新聞報道、「事業別予算説明書」をみれば明らかである。

また、年度初めに発行される「事業別予算説明書」に示される経費を設定される入館者数目標・年度末の入館者数実績と比較すると、どの施設も明らかに大きな赤字が出ることを前提に予算が組まれていることが素人目にもわかる状態である。

入館者数と収支について精査し、整合性のとれた目標を毎年度設定すべきである。ことに「おんばしら館よいさ」については飲食テナントすら見つからず、いかに集客が難しい施設かを物語っている状態である。いったいどういった見通しでこのような施設を設置したの

か一納税者としては大きな疑問が残る。

町長は3月5日の会見でテナントが決まらない件について「施設を作っておけば、御柱祭での（飲食に）対応できる」（3月6日付長野日報）と回答しているが、6年に一度の祭りの収益を期待してこのような施設を維持する方針であるならば、今後の人口減・高齢少子化・財政の逼迫等について危機感の乏しさを露呈していると思わざるを得ない。おんばしら館については利用方針の転換も検討に入れるべきである。

さらに下諏訪町は「無料」と冠した伏見邸、今井邦子文学館、宿場街道資料館、七曜星社蔵、高札場、八島ビジターセンターも抱えている。

向けた市場調査や実態調査」等により、観光振興を推進していくうえで真に必要なデータの収集に取り組み、分析・データに基づく、明確なコンセプトに基づいた戦略が必要と考えています。

施設の入館料等につきましては、公共施設の最適な配置を実現し、地域社会の実情にあった将来のまちづくりを進めるため、平成29年に「公共施設等総合管理計画」を策定しており、全ての公共施設について総合的かつ計画的な管理に関する基本方針を示しています。今後はこの基本方針に基づき、施設のあり方、費用コストの状況を踏まえた入館料の適正化等の検討により、再編計画を定めていくこととしています。

<p>これらの館も下諏訪の地域独自の文化や自然環境を伝える貴重な場所である。たとえ少額であっても入館料を設定し、リピーター確保のための展示解説の工夫、館の維持費の捻出など検討していくべきである。</p> <p>文化の伝承、保存維持、利活用については観光ベースで行うことではない。今ある文化的財産は現代を生きる私たちの物ではなく、はるか先の未来の人の物である。できるだけ残しながら利用していくためには保護保存を最優先に十分な予算を充て、教育委員会や文化財担当課がイニシアチブをとるべきである。文化財やそれに相当する事物の観光利用に当たっては十分な予算配分及び連携と行き届いた環境整備がこの観光振興計画に十分に組み込まれ、適切な利用と保護保全がなされることをお願いしたい。</p>	
<p>P6 3-①下諏訪温泉と諏訪大社の活用 P29 ⑥大社ブランドの創出（新たな魅力の創出）</p> <p>下諏訪力創造チャレンジ事業計画書で提案していますが、「金刺盛澄」の弟の「手塚太郎金刺光盛」の9代目子孫が手塚治虫先生であるところから、アニメによる観光振興（アニメツーリズム）も検討していただけたらと思います。</p>	<p>ご提案の事業については、地域における人と人との善意の関わりや、各種団体や企業、商店の魅力的なPR等の効果が期待されます。</p> <p>P6 3「観光素材としての地域資源の活用」により魅力的な観光商品の造成として、アニメツーリズムを切り口とした観光振興についても検討してまいります。</p>